

編集室



明けましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

また、平素より「水産宮崎」をご覧いただき、誠にありがとうございます。

「水産宮崎」の担当となり早2年が経ち、多くの方々の協力を得て今年も新年号にたどり着くことができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、昨年の社会情勢を顧みますと、人の流れを促進し、滞った経済を回す為、ゴートウトラベルなどの政策が開始され、何より新型コロナウイルスのワクチンが普及したことにより、少しずつではありますが生活に活気が戻って参りました。

また、その他では、一昨年延期された東京オリンピックが開催され、無観客ではありましたが何日にも渡る熱戦が繰り広げられ、画面越しの私達に勇気と感動を与えてくれました。我々漁業界においても、昨年延期された全国豊かな海づくり大会が、天皇陛下のリモートによるご臨席を賜り人数制限やオンラインなどコロナ対策を実施した上で宮城県において開催され、自然との共存を通じ持続的な漁業の実現に努めていくことを大会決議しました。

一方、本県の漁業生産については、主幹漁業であるかつお一本釣り漁業とまぐろ延縄漁業において生産数量は増加したものの、生産金額については新型コロナウイルスの影響等による魚価安基調により殆どの漁業種類において前年度に比べ大きく減少しました。

漁業経営を取り巻く環境については、経営を継続していく上で必要不可欠となっております外国人技能実習生等の入国の制限は依然として厳しい状況が続いておりますが、従来から取り組まれております太平洋クロマグロの資源管理については、WCPFC年次会合において2015年からの漁獲規制以降初めてとなる大型魚の増枠が、今年の1月より15%拡大することを正式に決定されるなど、明るい兆しも見られております。

このような状況の中、我々業界に必要なことは、漁業を守り、漁業を継承していくという観点から、多くの方へ魚や漁業について関心を持ってもらえるよう情報発信を行い、改めて魚食文化の魅力に気付いて頂くことで魚離れを少しでも防ぐことが重要ではないかと考えます。

漁業を取り巻く環境は、依然として漁業収益の減少や後継者不足等益々厳しい状況ではありますが、この「水産宮崎」が、漁業者の皆様の事業、生活の改善に繋がるよう、関係者の皆様が情報共有していただくツールとして、本年も引き続き紙面作りに精進して参ります。

結びになりますが、今年1年が皆様にとって、実り多き年になりますようご祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

